

『年報・フランス研究』(BAEF) 執筆要項 (2020.06)

1. 全般的注意

- ・ 原稿は Microsoft Word で作成し、横書き。日本語の場合は各ページ 40 字 x 35 行で、英仏語の場合は、各ページ 40 行で。
- ・ 注、参考文献、図表等を含み、原則として日本語では 16000 字以内、英仏語の場合はスペースを含んで 31200 字以内とする。
- ・ 日本語の場合は明朝系のフォントで、欧文の場合は Times New Roman でともに 11 ポイント。
- ・ 日本語の句読点は「。」と「、」を用いる。(「.」や「,」は用いない。)
- ・ フランス語のアポストロフは「'」を用いる。(「'」は用いない。)

2. 全体の構成

- ・ 章・節を設ける場合には、その番号として算用数字を使う(ローマ数字は不可)。
- ・ 章・節の番号とタイトルはボールド体にし、「左寄せ」をする。
- ・ 章と章のあいだには空白を 1 行分設ける。
- ・ 注は脚注とする。9 ポイント。本文中の該当個所の右肩に¹のように番号を付ける。

3. 題名・氏名等

- ・ 原稿の最初の行に論文の題名を 12 ポイントで書き「中央揃え」をする。1 行空けて行末に氏名を 12 ポイントで(姓と名前のあいだに 1 字分の空白を設けて)書き、行末に全角 1 字分空白ができるよう「右寄せ」をする。
- ・ 原稿の最後(参考文献の最後の次の行)に所属と身分を記す。
例：(関西学院大学文学部非常勤講師)(○○大学△△学部助教)(関西学院大学文学研究科博士課程後期課程単位取得退学)(関西学院大学文学研究科研究員)等。

4. 引用

- ・ 本文に引用を組み込む場合、日本語では「」を用い、フランス語では« »を用いる。
- ・ 独立した引用の場合、前後を本文から一行あけ、かつインデント機能を使って冒頭を全角 2 文字程度分下げる。
- ・ 引用の一部を省略する際、日本語の場合には(中略)とし、フランス語の場合は[...]とする。
- ・ 注における引用の反復に関しては、直前の注で参照した引用は、日本語の場合、「同上」とし次にページ数を記す。フランス語の場合、*Ibid.* (イタリック体)とし、次にペー

ジ数を記す。すでに参照した引用は、日本語の場合「前掲書」とし、次にページ数を記す。フランス語の場合、*op. cit.*（イタリック体）とし、次にページ数を記す。

5. 書籍・雑誌名、論文・詩・章題等

- ・ 日本語の書籍・雑誌名は『 』に入れる。
例：『年報・フランス研究』
- ・ フランス語の書籍・雑誌名はイタリック体とする。
例：*Revue d'Histoire littéraire de la France*
- ・ 雑誌掲載の論文や詩集に収められた詩に関して、日本語の場合は「 」に入れる。
例：ヴィクトル・ユーゴー『東方詩集』所収「天の火」
- ・ フランス語の場合は« »に入れる。
例：« Le feu du ciel » dans Victor Hugo、*Les Orientales*.

6. 参考文献の書き方

原則として、以下の学会のどれかの方式で統一する。

- ・ 日本フランス語学会『フランス語学研究』

<http://www.sjlf.org/wp-content/uploads/2010/03/参考文献表記法.pdf>

- ・ 日本フランス語フランス文学会関西支部『関西フランス語フランス文学』

https://doi.org/10.24490/ellfk.25.0_111

- ・ 日本フランス語フランス文学会 *LITTERA*

http://www.sjllf.org/LITTERA/?action=common_download_main&upload_id=1961

- ・ 日本フランス語教育学会 *Revue japonaise de didactique du français*

http://sjdf.org/publication/instructions_reglements

7. 提出、校正

- ・ 原稿は、電子ファイルをメールに添付して編集委員宛てに提出する。
- ・ 原稿提出時に、以下の事項を知らせる。
 1. 日本語原稿の場合：フランス語タイトルと氏名の欧文表記
 2. 英仏語原稿の場合：執筆者名の日本語表記
 3. 長期不在時のある場合：その期間と連絡先
- ・ 初校の校正は執筆者が行う。校正刷りは、原則として印刷所から執筆者あてに送られるので、執筆者の連絡先を印刷所に知らせることをあらかじめ了解すること。